

福祉文化の創造を切り拓く

## “若者発 ご近所福祉かるた”へのアクセス

静岡福祉文化を考える会では、赤い羽根共同募金の助成をいただき、このたび、「若者発 ご近所福祉かるた」を創作いたしました。

20年間にわたり、多くの皆様方のご支援とご協力により、身近な地域社会から「福祉を文化にする」試みを実践し、ここに「若者発 ご近所福祉かるた」が誕生しました。

これまでの実践プロセスをご紹介します、世代を超えた地域総合学習の場でこれからの福祉のまちづくりに、「若者発 ご近所福祉かるた」が役立つことをご期待申し上げます。

平成28年2月6日

静岡福祉文化を考える会

代表 平田 厚

### 1. 20年間の福祉文化実践活動を基盤にして

これまで、静岡福祉文化を考える会では、20年間にわたり、市民一人ひとりがより豊かな生活環境を日々創る努力を「福祉文化の創造」のプロセスと置き換えて、さまざまな福祉問題を専門分野と世代を超えて市民が、拓かれた地域社会の構築に向けて、理論と実践を融合する実践活動を積み重ねてきました。

平成20年度から平成26年度までの7年間は「長寿者を取り巻く地域社会」をもとに、とりわけ、長寿者が安心して暮らせる身近な地域社会の再構築について、「一人でも安心して暮らせる地域づくり」と置き換え、様々な福祉文化実践活動に取り組んできました。

これまでの7年間の尊い福祉文化実践のプロセスを振り返って見ますと、

- \* 1年目は「長寿者の生きがい」（長寿者の自立）
- \* 2年目は「長寿社会への課題」（共生社会実現の道程）
- \* 3年目は「生活圏域の支え合いの仕組み」（ご近所福祉）

と関連づけて、共生社会の再構築に向けた「福祉文化の創造」について、数々の課題を年度ごとに提起してまいりました。

- \* 4年目は「住民一人ひとりの居場所が生活圏の中で存在しているか」単に長寿者だけの問題ではなく、住民一人ひとりが日頃から地域に居場所を持つことの必要性を正す。
- \* 5年目は「家族・家庭の機能」を長寿者等の孤立・孤独防止につなげ「家庭こそが真の居場所」を議論しました。

- \* 6年目は、「長寿者をつなぐ、ホッとすご近所づくり」をテーマに「家族・家庭」と生活圏域の「ご近所の支え合い」を焦点に、その意識と実態を明らかにしました。
- \* 7年目は、これまでの「長寿者の自立」「共生社会」「地域社会の支え合いの仕組み」「地域の居場所」「家族・家庭機能見直し」「ご近所福祉」を総括する意味合いから、あらためて長寿者を中心に、いかにして一人一人が生活圏域から孤立しない地域、お互いに支え合える共創社会を創りあげていくかをもとに、課題解決の柱立てを

1. 「大人社会がいかにして、積極的に若者の地域参加の機会を創るか」
2. 「福祉と教育の融合こそが地域を切り拓く」
3. 「専門性と市民性の協働を誰がコーディネートするのか」
4. 「住民主体の共創社会へのプロセス」

を浮き彫りにしてまいりました。

## 2. 「若者発 ご近所福祉かるた」の誕生

これまでの20年間の「福祉文化実践活動」を基盤に、この7年間の「一人でも安心して暮らせる地域づくり」の様々な活動から、このたび、ここに誕生しました「若者発 ご近所福祉かるた」は、薄れてきた家庭機能をせめて地域社会に託し、対等な立場で、しかも生活圏域で顔の見える関係を以て長く継続した信頼関係を築づいた人的環境の下で、お互いを認め合う、「おすそわけの世界」こそが「ご近所福祉」とも置き換えて、地域の福祉課題解決につなぐことを期待し、ここに誕生したものです。

これまで、本会では、この5年間は、一貫して「若者発」を重視し、これからの地域づくりには、若者の地域デビューを真剣に考えていくことが重要であることを強調し、「公開型研修会」や「長寿者訪問型研修会(百歳の長寿者宅を5か月間、分散型で152名の若者が訪問し学び合いました)」から、地域づくりを若者の視点で議論してまいりました。

「これからのご近所福祉」を語り合う中で、浮き彫りになりました、現実の生活圏域における地域の状況への思いや、大人集団との意見の交し合いや向き合いから感じたこと、地域の担い手として、今の社会を改善したいという熱い思いなどを「かるた」の読み札に置き換えて、これまでの地域の良さをさらに強調し引き続き実践していく呼び掛けとし、見失った地域力を復活していきたい思いを新たに「読み札」に託し、参加された若者から新しい提案を具現化するなどして、約400の「読み札」が浮かび上がりました。

「静岡発 福祉文化の創造」をめざして、多くの若者の意見をもとに取り組んできたプロセスから、「若者発」をキーワードにした「ご近所福祉かるた」の創作が具体化しました。

### 3. 「共創社会実現研究会」「若者発“居場所”あり方研究会」と共に

平成26年度に設置した「共創社会実現研究会」は、主に、地域の現状把握をもとに、これからの「地域社会の仕組み」をいかにして創りあげていくかを議論してまいりました。

改めて、平成27年度は、広く一般市民の自主的参画をもとに「共創社会実現研究会」を継続的に取り組むとともに、さらに「若者発“居場所”あり方研究会」を立ち上げ、2つの研究会を連動しつつ「協働」により、「読み札」の選定にあたり議論を深め、ここに46枚の「読み札」を取りまとめるとともに、「絵札」については、本会の活動にご理解をいただいています。漫画家 法月理栄様との協議を積み重ねながら「若者発 ご近所福祉かるた」の創作に取り組んでまいりました。

### 4. 漫画家 法月理栄様のご協力をもとに

「絵札」は、これまで、県内外でご活躍されておられます漫画家 法月理栄様の多大なご理解とご協力により、46枚の「読み札」について、コミュニティの現状や、福祉社会を取り巻く実社会等を情報交換しながら「若者発 ご近所福祉かるた」の創作が実現できました。

また、この「若者発 ご近所福祉かるた」のモデル地域設定は、2,000世帯ほどのコミュニティを想定し、「絵札」には、長寿者の方々の姿に接し、また、児童、青年や障害者の皆様方、子育て中の方、自治会・町内会の役員さん、民生委員児童委員さん、福祉関係者の皆様に登場していただき、思いを込めて、ご近所同士の支え合いやふれ合い交流などをストーリー化し、描いていただきました。

### 5. あらためて「ご近所福祉」を考える時代を迎えて

「ご近所ってなに?・・・」、よく町内会や自治会の集まりの中で、こんな話が飛び交っています。生活圏域における人々のお付き合いは、複雑多様な福祉課題が生じている今日、なかなか親しく声を掛けあう機会すら薄れてきました。

また、地域環境も大きく変化し、暮らし合う環境や若い世代間では地域離れも加わり、近隣世帯間の交流、つきあいや声かけも希薄化しつつあります。

こうした状況は、高齢者世帯、長寿者単身世帯ともなると、さらに深刻化し、なかなか身近な生活圏域での出来事や話題も知る機会すらなくなり、地域から孤立化の傾向が強くなっています。あの時代、何キロ離れても、そこには、つながりを持ったご近所関係が出来ていました。

これだけ、情報文化が発展してきた今日にあっては、これまで以上に、人々の信頼関係は深まっていいはずなのに、むしろ深刻な社会問題すら生じつつある今を迎えているように感じます。

ここに誕生しました「若者発 ご近所福祉かるた」が、生活圏域において、世代を超えた「地

域総合型学習」の場で、それぞれの地域性を活かし、有効に活用され、地域福祉の推進に役立つことを期待します。

## 6. 「若者発 ご近所福祉かるた」には、40の「キーワード」があります

- |                        |                        |
|------------------------|------------------------|
| 1. おすそわけ               | 21. 専門性と市民性の融合         |
| 2. 情報伝達                | 22. 環境美化               |
| 3. 趣味・特技を地域活動に活かす      | 23. コミュニティリーダー         |
| 4. 地域ぐるみの福祉教育          | 24. 共生社会               |
| 5. 子どもの見守り             | 25. 支え合い               |
| 6. 家庭機能(家庭力)           | 26. 居るだけのボランティア        |
| 7. 感謝の心                | 27. 集まる地域の居場所          |
| 8. 若者の地域参加             | 28. 長寿者の社会参加           |
| 9. 他者との関係づくり           | 29. コミュニケーション          |
| 10. 子どもの居場所            | 30. さりげない見守り           |
| 11. 防災意識強化は家庭から        | 31. おせっかい屋さん(世話やきさん復活) |
| 12. いつでもどこでもボランティアチャンス | 32. 地域文化               |
| 13. 防犯(安全)             | 33. ふれあい               |
| 14. 健康                 | 34. 地域課題の把握            |
| 15. 子育て支援              | 35. コミュニティ             |
| 16. 仲間づくり              | 36. 小さな親切              |
| 17. さりげない声かけ           | 37. ご近所福祉              |
| 18. 地域づくり              | 38. 生きがい               |
| 19. 世代間交流              | 39. 地域行事               |
| 20. 地域福祉               | 40. 相互理解               |

## 7. 読み札を少し解釈しますと . . . . .

- |                      |  |
|----------------------|--|
| ありがとう 優しい気持ちの おすそ分け  | ⇒ おすそ分けは物だけではありません。心を添えた「おすそ分け」の復活を。対等で見返りを求めず、何時までも続く信頼関係。      |
| 居るだけで 温かいなあ このまちは    | ⇒ 今、世代を超えた地域づくりに欠かせない「居るだけのボランティア」若者も長寿者も地域に姿を見せているだけで心がホックリ     |
| 運動会 ご近所みんなで 応援だ      | ⇒ 運動会には地域住民がたくさん集まります。こうした地域行事で「地域ぐるみの居場所づくり」を継続したいものです。         |
| 会釈して 通り過ぎれば 顔なじみ     | ⇒ 見知らぬ人でも、すれ違った時には軽く会釈をしたいものです。それだけで「他者との関係づくり」そこから信頼関係が生まれてきます。 |
| おせっかいと 思われようとも 世話をやく | ⇒ 昔の地域のあちこちに世話やきさん(おせっかいやさん)がいました。人々や地域をつなぐ「世話焼きさん」復活を。          |
| 家族とも 話しておこう 避難みち     | ⇒ 災害はいつやってくるか分かりません。家族の話し合いで「防災意識」の強化が大切です。                      |

- きっかけを 見つけて広げる ボランティア ⇒ いつどこでも誰でもボランティアのチャンスがあります。「ボランティア活動」そこにはきっかけこそが大切。
- 暗い道 みんなで見守る 光る目で ⇒ みんなの目がある地域は安心安全です。ご近所力で「防犯(安全力)強化を常日頃から心掛けましょう。
- 健康を 見守る優しさ 支え合い ⇒ 一人より二人、二人よりみんなだと続くようです。「健康づくり」はご近所さん同士で「地域の輪づくり」。
- 子育ては 語れる先輩 探すこと ⇒ 悩みを話せるご近所さんがいると問題解決が可能です。体験を語り合うことで「子育て支援」。
- さみしくない 一人じゃないよ 仲間いる ⇒ 地域には、悩みを持った人・孤独な人がいます。長生きの秘訣は地域の「仲間づくり」から始めましょう。
- 知ってます? お隣り家族 お向かいさん ⇒ 大災害で実証されたように、「隣人」は頼りになります。普段から「隣組」との関わりをもったお付き合いを心掛けましょう。
- 住みやすい まちはみんなで 創るもの ⇒ リーダー(町内会長・民生委員等)にだけおまかせでは本当の地域づくりではありません。住民参画で「地域づくり」を。
- 世代差を 埋めてつなげて まちづくり ⇒ 世代間交流に心掛けて、若者の言い分、大人の言い分を聴きあう(傾聴)で、相互理解に務めましょう。
- そばにいる ただそれだけで 癒される ⇒ 「そばにいていくれる、それでいい…」なんて歌が昔ありました。それだけで「癒される人間関係」をご近所で心掛けましょう。
- 頼んだよ 手を出しあって 明日創る ⇒ 少子化、超高齢社会の今、誰におまかせでは立ち行きません。「地域福祉」はみんなの助け合いで創りましょう。
- 地域文化 祭りや食べ物 根付いてる ⇒ 伝統的な祭りや食文化は、次世代に伝えてゆかねばなりません。身近な地域の「地域文化」の発見と発展に心掛けましょう。
- つなげてく 手から手へと 回覧板 ⇒ 回覧板は最も身近な情報伝達の手段です。家族みんなに伝え、お隣さんにも一声かけ、内容をしっかりと理解し合しましょう。
- 手伝いは 子どもの心 育ててく ⇒ 子どもも家族や地域を構成する一員です。日頃から手伝いで「子どもの居場所づくり」をしましょう。
- 得意わざ 活かして参加 地域の行事 ⇒ 何か1つは他人に誇れる趣味・特技を誰もが持ち合わせています。その持ち合わせて「地域参加」をしてみましょう。
- 悩んだら 文殊の知恵で 安心地域 ⇒ 三人寄れば文殊の知恵、地域の集まりには進んで参加したいものです。「地域の懇談会」で、住み良い地域づくりをめざしましょう。
- にっこりと 笑顔いっぱい おつき合い ⇒ 緩やかで笑顔の溢れる繋がりが人間関係を継続させます。「さりげないつき合い」でより良い関係を創りましょう。
- ぬくもりは サロンの仲間と 語り合い ⇒ 集まるサロンに笑顔がいっぱい。「集める」から「集まる」サロンこそ「真の地域ぐるみの居場所」です。
- 根付いてる 地域の隅々 助け合い ⇒ 助け合いの輪は地域の隅々まで広げなければなりません。隅々まで「地域の福祉力」をみんなで発揮しましょう。
- 伸ばそうよ 思いやりの芽 福祉の芽 ⇒ 住み慣れた地域で、思いやりやお互いさまの気持ちを広げたいものです。「地域ぐるみの福祉教育」をめざしましょう。
- 初めの一步 勇気を出して 地域デビュー ⇒ ボランティア活動を始めるのには一寸とした勇気が必要です。さあ、はじめの一步、その勇気でボランティア活動が始まります。
- 日暮れ時 帰る子どもに 一声を ⇒ 子どもの安全・安心がいかに確保していくか、いま社会全体の問題となっています。地域全体で「子どもの見守り・声掛け」を。
- ふれあいは 親子の会話 さりげなく ⇒ ふれあいの濃さは時間の長さではありません。さりげない日常会話(家庭機能)で「家庭力」を向上しましょう。
- 返事にも 感謝の気持ち 付け加え ⇒ ハイという返事だけでは物足りません。一言添えて「感謝の心」を常にあらわしていきましょう。

ほめ言葉 近所の子にも 声を掛け	⇒ 我が子だけでなく近所の子たちも見守りたいものです。近所の子にも声を掛けて「地域の子どもは地域で育む福祉力」向上をめざしましょう。
窓開けて 道行く人にも ご挨拶	⇒ 長生きは閉じこもらずに身も心も外へと向けていくことが大切です。自ら進んで「コミュニケーション力」アップを。
見守られ 見守りつつで 暮しく	⇒ いろいろな人が暮らし合って当たり前のご近所。ひと声かけて安心し合える地域づくりを日頃のお付き合いの中から創りだす努力をしましょう。
向こうより 素早く声掛け こちらから	⇒ 相手からの挨拶を待つことなく、こちらからさりげない言葉を掛けは微笑ましいものです。「声掛け」は私から……。
目が笑う 優しい心が 人づくり	⇒ “目は口ほどに物を言う”、と言われる。 「ふれあい」は優しい目から、心から 「アイコンタクト」。
問題点 たくさんあるから チャンスあり	⇒ 私たちの地域社会には、まだまだ地域課題はたくさんあります。その「課題発見」から発想や視点を変えるで解決につながります。「地域把握」でピンチをチャンスに。
やかましい 大人の注意で 振り返り	⇒ 昔は子どもの周りに「怒るおじさん」(やかましい大人)がいたものです。でも、そのやかましい大人も「地域の教育力」であることも。
譲り合い してもされても 笑み浮かぶ	⇒ 思いやりの行為は、した人もされた人も気持ちが良いものです。してよし、されてよし「小さな親切」。
喜びを 皆で分け合う 地域社会	⇒ ご近所の悲しみを皆で悲しみ、喜びを皆で喜びあいたいものです。「支え合う地域」を日ごろから心掛けましょう。
ライフワーク 自慢のまちに 創り変え	⇒ 一人一人の力を合わせ、活動を継続すると自慢のまちが出来上がります。地域参加は「生き甲斐づくり」。
リサイクル ゴミ出し袋も 気をつかい	⇒ 安心・安全な町は清潔な地域環境から生まれます。「環境美化」は正しいゴミ出しから。
ルンルンと 地域行事に 胸躍る	⇒ 老若男女、誰もが楽しめる祭りが地域を盛り上げます。祭りなどの「地域行事」でまちおこし。
連絡は 伝える相手に 言葉選び	⇒ 地域には長寿者や障がい児・者の方々やいろいろなハンディを持つ人がいます。連絡・報告・相談時の言葉や態度は、しっかりと「相手理解」をしましょう。
老人を 長寿者と呼び 知恵を借り	⇒ 亀の甲より年の功、長寿者に学ぶことは、いろいろな場面で大変多くあります。「長寿者の社会参加」で地域力向上に務めましょう。
若者が 未来の地域を 創っていく	⇒ 今こそ、大人社会が、若者の地域デビューをしっかりと創り、機会を供する時期が来ています。「若者の居場所」は地域にあります。素敵な魅力ある地域づくりをめざし、「若者参加」を大いに働きかけましょう。
ご近所を 福祉でつなぐ かるた会	⇒ 「若者発 ご近所福祉かるた」の「読み札」や「絵札」を使い、大いにコミュニケーションが深め、地域を学びましょう。
いたわりで 人の輪づくり 結ぶ縁	⇒ 人と人がふれあうことで地域が盛り上がります。福祉文化の盛り上げは「コミュニケーションづくり」。

## 8. 「若者発 ご近所福祉かるた」の活用方法はいろいろあります

### (1) 従来型活用方法

読み札を一人が読み、参加者が絵札を取り、取った絵札の枚数で勝負を決めます。

## (2) グループワーク的活用方法

読み札に託されている「キーワード」をファシリテーター(進行役)が選択し、その読み札の内容解釈をグループごとに話し合い、出された意見をまとめていきます。グループごとに出された意見を全体会で紹介し、共通理解を深めたり差異を認め合ったりします。

## (3) 絵札の拡大コピーを会場に提示し集団活用方法

体育館など広い会場での学び合いでは、拡大絵札を取り合い競技として楽しむことも面白いでしょう。身体を使うことで、適度の動きえお伴うダイナミックな楽しみとなります。また、拡大絵札を活用して「ご近所福祉」を語り合う場にもなるでしょう。

## (4) 課題解決型活用方法

絵札が拾われた都度、その絵札に描かれている状況をもとに議論し「ご近所福祉」の理解を深め合います。研修時間により、かるたの枚数を調整することも良いと思います。

## (5) その他の活用方法

### ①札だしジャンケンゲーム

かるたの裏には、「グー」「チョキ」「パー」のジャンケンの表現が描かれています。参加者に同数のかるたを配り、合図で一斉に札をだし、勝った人は負けた人の札を貰います。手持ちの札が終ったところで終了とします。

### ②絵合わせゲーム

かるたの裏には、赤い羽根のキャラクターが描かれています。同じ赤い羽根のキャラクターの絵合わせをして楽しみます。

### ③「昔のあそび」を学ぶ

かるたの裏には、懐かしい昔のあそびが描かれています。こうした札をもとに、「昔のあそび」「今のあそび」を世代を超えて語り合い学び合います。

ここにあげました、「若者発 ご近所福祉かるた」の活用方法は、ほんの一例です。

企画・製作 静岡福祉文化を考える会  
作 画 漫画家 法 月 理 栄  
協 力 共創社会実現研究会  
若者発“居場所”あり方研究会  
常葉大学学生有志

#### 連絡先

〒425-0041 焼津市石津 7 5 1 - 1 静岡福祉文化を考える会 代表 平田 厚  
Tel & fax 054-624-1924 携帯 090-4861-4547  
E-mail monogusa-tomy@theia.ocn.ne.jp

# パッケージ





# 「福祉かるた」の一部

